

松永泰彦さんの一周忌にあたって

事務局

はじめに

平成10年（1998）の12月6日（日）午前10時過ぎ、芦辺町教育委員会の松永泰彦さんは帰らぬ人となりました。享年45歳という、あまりにも早く、あまりにも突然の死は、松永さんを知る人を、しばし茫然自失とさせました。あの時の驚きと、そのあとの無念さが昨日のここのように思い出されま
す。早いもので、あの日から一年が過ぎました。一周忌にあたって、あらためて慈愛に満ちた松永さんのお人柄を偲ぶとともに、氏が果たされた沓岐の文化財保護や、古代史研究への多大なる功績をここに顕彰したいと思います。



1. 松永泰彦さんの略歴

松永泰彦さんは昭和28年（1953）沓岐郡勝本町にお生まれになり、沓岐高校在学中に歴史研究とくに沓岐の古代史に興味をもたれ、精力的な研究を開始されました。その後、県の文化財保護指導員などを歴任され、平成5年からは芦辺町教育委員会で文化財調査員として、原の辻遺跡をはじめ町内の埋蔵文化財調査や文化財保護に尽力されたのです。

2. 松永泰彦さんの著作—松永康彦氏著作目録—

（1）論文

「沓岐島北部における古墳の現状」『沓岐』15号 沓岐史跡顕彰会 1981

（2）報告書

- ①『原の辻遺跡 高元地区範囲確認調査』芦辺町文化財調査報告書第9集 芦辺町教育委員会1995

※「銅鏃・卜骨」など注目される報告を行う。

- ②『原の辻遺跡』長崎県文化財調査報告書第124集 長崎県教育委員会 1995

※「V. 調査 4. 遺物（2）石器,（3）青銅器類,（6）骨角器」の項を執筆
「青銅器類」の銅鏃について注目される報告を行う。

- ③『原の辻遺跡・安国寺前A遺跡・安国寺前B遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第1集 長崎県教育委員会1997

※「Ⅲ. 調査 4. 原の辻遺跡（平成6年度芦辺高原地区）の調査」の項を執筆

- ④『観城跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第3集 長崎県教育委員会1997

※「Ⅲ. 調査 4. 中世から近世初頭にかけての遺構と遺物（2）銭貨,（3）①土器・陶磁器組成」の項を執筆。特に「土器・陶磁器組成」は優れた分析と成果。

- ⑤『原の辻遺跡・鶴田遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第4集 長崎県教育委員会1998

※「Ⅱ. 調査 2. 平成8年度原の辻遺跡（芦辺町教委分）の調査」の項を執筆。



在りし日の松永泰彦さん－西谷，工業両先生らとともに－（中央で帽子姿）
「原の辻ニュースレター」創刊号より（長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所提供）

- ⑥『興触遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第7集 長崎県教育委員会1998
※「Ⅲ. 調査 2. 範囲確認綱査（平成7年度），3. 本調査（2）Ⅳ～Ⅴ区の調査（芦辺町教委担当概要），（3）出土銭貨」の項を執筆。

（3）未発表著作

①壱岐島内中世文書並金石文書

（文責：宮崎貴夫）

3. 松永泰彦氏 報告書等写真メモ

－下記文献の該当頁に松永さんの生前のお姿が撮影された写真が掲載されています－

- （1）『昭和63年度 長崎県埋蔵文化財発掘技術研修記録』長崎県教育庁文化課 1989.3
同書2頁 写真2 遺物取り扱い実習風景（拓本）
同書9頁 写真3 基礎課程Ⅰ 参加者
- （2）『平成元年度 長崎県埋蔵文化財発掘技術研修記録』長崎県教育庁文化課 1990.3
同書27頁 図版9 専門課程参加者（後藤和民先生とともに）
同書39頁 図版13 専門課程参加者（松下孝幸先生とともに）
同書25頁 図版7 縄文土器製作実習風景（1）
- （3）『平成2年度 長崎県埋蔵文化財発掘技術研修記録』長崎県教育庁文化課 1991.3

- 同書10頁 図版2 基礎課程〔Ⅱ〕 石室の実測について
同書19頁 図版7 石室実測風景
同書53頁 図版10 基礎課程〔Ⅱ〕の参加者
- (4)『県内古墳詳細分布調査報告書』長崎県文化財調査報告書 第106集 長崎県教育委員会 1992
同書87頁 図版17(上) 墳丘測量風景
- (5)『平成6年度 長崎県埋蔵文化財発掘技術研修記録』長崎県教育庁文化課 1995. 4
同書45頁 専門課程参加者(渡辺 誠先生とともに)
- (6)『原の辻ニュースレター』創刊号 原の辻遺跡調査事務所 1999
同書2頁 原の辻遺跡視察中の整備委員(カラー)
- (7)『平成11年度 要覧』原の辻遺跡調査事務所
同書9頁 ワークショップ体験発掘の様子

(文責：宮崎貴夫)

4. 弔辞「一途に生きた君へ」

松永泰彦君。君は考古学一途に生き、四十五歳を一期に、この世を去った。あまりにも突然の、早い別れに、我々は言葉を失っている。

現場第一主義でつちかった君の堅牢な学識が、杵岐の歴史の暗がりを一枚一枚はぎとり、ひかりをあててくれた。

君の慎重でいて、たくましい歴史への探求心は、類いまれなものがあつた。君の研究の一步一步が、杵岐島の歴史をあきらかにしてくれていた。長いきをして、研究を続けてほしかつた。君の知識を一番欲していたのは、この杵岐の島であつたと思う。

君は高校時代に考古学の魅力にとりつかれ、研究者として旺盛な活動を続けてきた。瓦の研究、杵岐島の古墳の研究、そして原の辻遺跡調査の第一線に立って昨日まで大活躍をしていた。

その君が、急にいなくなつた。

君を失つた損失は、はかり知れないものがある。

君のあとをつげる者は、だれもいない。

我々は、あまりにも大きな人を失つてしまった。

天国で永遠の命を得た君よ この世にのこした家族を「一途」に護りたまえ

平成10年12月6日 杵岐國研究会 須藤資隆

この弔辞は勝本町教育委員会の須藤資隆氏が執筆され、葬儀会場では横山順先生がお読みになつたものです。

この項を制作するにあたっては、勝本町教育委員会の須藤資隆さん、原の辻遺跡調査事務所の宮崎貴夫さんに大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

(事務局)